

2020年度第1回ランチタイムフリートーク報告書

【日時】2020年11月24日(火) 12:45-13:20

【開催方法】Zoom(オンライン)

【講師】英語学科: 廣田秀孝先生

【司会】英語学科: John Williams 先生

【出席者】25名

講演タイトル

「排斥か、労働力確保か: 米国史における移民ジレンマに関する考察」

“Nativism and Demand for Foreign Labor: The Immigration Dilemma in U.S. History”

発表者が「アメリカン・ジレンマ」と呼んでいる、アメリカ史の考察を通じて見えてくるジレンマの一つに移民をめぐるものがある。それは、一方でアメリカは移民を排斥しようとしながらも、他方では移民の労働力を経済的な面で必要としている、というものである。本研究プロジェクトは、この移民をめぐるアメリカン・ジレンマがどのように形成されたのかを、20世紀の転換期における、契約労働者を規制する「契約労働者法(alien contract labor law)」の歴史的な成り立ちや経緯に着目することで明らかにしようとする試みである。

本研究の意義は主に二つある。一つはアメリカ移民史の枠組みに修正を促すことである。契約労働者に対する排斥の経緯を本法律に定位して見ることによって、移民制限がアメリカの沿岸州から内陸部に広まっていく一連の流れが見えてくる。これは多岐にわたる移民集団を土地や時代の点でもより広範に捉えることを可能にする見方であり、特定の移民や狭い地域をターゲットにしてきた既存の研究とは方法論的にも区別される。

もう一つは、本法律が1900年代当時、主に日系人に対して執行されていた点に着目することで、そこに現在まで続くアメリカにおける移民差別の起源があると主張できることである。本来、本法律はすべての人種に適用されるべきものであるが、米国北西部地域においてはヨーロッパ系やカナダ系には執行されず、日系を実質的なターゲットとして執行されていた。カラーブラインドの法律が人種差別的に使用される事例の起源が、日系人に対して行使された契約労働者法にあったと主張することに本研究の新しさがある。

このように、「契約労働者法」の歴史的経緯を追うことによって、現在まで続く移民政策をめぐるジレンマがいかにしてアメリカ全土に広まり、形成されていったのかが詳細に見えてくる。

フリートーク

・質問①

当時の日系移民の数はアメリカの全移民者数の3%だったにもかかわらず、契約労働者法で入国を拒否された者のうち30%が日本人だったという統計は、他のアジア系と比較してみたときに何が言えるか？

→当時のアジア人の中では中国人が一番多かったが、中国人に対しては「中華排斥法」という彼らに特化した別の法律がすでにあった。そのため、少ないアジア系集団の中では日本人がとくに目立っており、それが統計の数値に反映されていると考えられる。

・質問②

今回の研究を現在の日本の移民制度と関連付けるような試みはされているか？

→技能実習生の問題は、労働力は欲しいがパーマメントな移民を受け入れるのは嫌だというロジックであり、その点では現在の日本と当時のアメリカの状況は似ている。

・質問③

当時の契約労働者の職種は？

→鉱山・鉄道・農場・工場など非常に多岐に渡る。男女比率では圧倒的に男性が多く、夫婦が入国を試みた場合、夫が契約労働者として入国を禁止される一方で、妻は自活できないという経済的な理由から入国を許されない事例もあった。

・質問④

新しいバイデン政権のもとでアメリカの移民政策は何か変わるか？

→移民問題はアメリカの政治のなかでリベラルな問題にしづらいテーマなので変えることは難しい。オバマ政権のときのように幼少期にアメリカに非正規移民として来た人たちの地位を大統領権限で一時的に保証するようなことはあるだろうが、根本的な解決は政治的に難しいことが予想され、楽観はできない。

司会者 John 先生のコメント

Professor Hirota's research into immigration history in the United States is completely fascinating and I am very impressed by the way he is developing the themes of his first book into a wider account of immigration policies and the changing nature of immigration in the US. The parallels that can be drawn between restrictive immigration policies and the reasons for these policies in the United States in the last century and the current situation in Japan is also extremely useful and interesting for our students too and I was glad that he talked at length about these parallels.